

## 神奈川県立相模原支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を次の通り開催しました。

審議会等名称	令和5年度神奈川県立相模原支援学校第2回学校運営協議会（第2回学校評価部会）	
開催日時	令和5年8月2日（水）10:35～11:55	
開催場所	麻溝公民館 大会議室	
出席者	学校運営協議会委員7名、本校職員：事務局10名（内総括教諭7名、関係教諭2名） 【欠席4名】	
次回開催予定日	令和5年10月31日（火）を予定	
問合せ先	神奈川県立相模原支援学校 副校長 比留川はるか 電話 042-778-0818 FAX042-778-4957	
掲載するもの	議事録	公開を概要とした理由
審議・会議経過 【学校運営協議会（学校評価部会）】	<p>※（事務局）本日の日程・配付資料の確認、会長・学校長挨拶</p> <p>1 第1回切れ目ない支援部会報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県立相模原公園ワーキンググループに参加。ギオンスタジアムのボランティア活動は当日欠席分のエスコートキッズに本校生徒1名が担当。ゴミ置き場マナー改善活動は、校内周知済で自治会と連携して実施。地域ボランティア創出は、マニュアルを整備中。教員の要望を基に募る予定。情報発信の充実はコミ・スクレターのホームページ掲載を検討。</li> <li>・ その他：見守りボランティア交流会を実施。相模原地区障害児・者作品写真展（イオン相模原店）に出展。橋本高等学校との2校学び合いは、教員同士の研修やゲストティーチャーを予定。4年ぶりに同窓会を開催。進路見学会実施。小・中学部保護者対象に進路支援アンケートを実施、同窓会参加の保護者に依頼し回答を得た。11/22「企業と語ろう」を麻溝公民館で実施予定。</li> <li>（意見等）・ 高等部1・2年生徒保護者対象進路見学会を通して、地域資源を知る機会になればよい。</li> <li>・ 地域ゴミ置き場マナー改善活動は、身近なことに結び付けて行えるとよい。ゴミ問題は3年間地域課題である。学校と一緒にできることはありがたい。今後もつながっていききたい。</li> <li>・ 外国につながるのある子どもの保護者は今に一生懸命である。進路見学会等、積極的に周知する。</li> </ul> <p>2 協議（意見等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 令和2年度～令和4年度（3年間）の取組内容と成果</li> <li>➡ 「4年度の取組を推進」と「これまで3年間の内容と成果の確認評価」の予定について確認。</li> <li>・ 学校評価が形式的である。教員に役立つ仕組みや手続きが必要。分掌や学部で話し合い、全体で共有する必要がある。記載内容が具体的でなく分かりにくい。学校評価の方法も検討していく。</li> <li>● 「今年度の学校評価の流れ及び次年度以降4年間の学校目標検討日程を説明し、了承された。</li> <li>● 「第1回学校運営協議会の意見を受けた現状と課題及び今後の方向（案）」について</li> <li>・ 学校教育目標は、全校保護者懇談会や学校説明会、入学説明会等で各学部が工夫して伝えている。課題は、教職員一人ひとりが自身の言葉で説明できること。現状は、学校教育目標・他学部の教育目標を全教職員が説明するのは難しい。今後、職員会議等で校長、学部長等が周知したい。2年前に教務班を中心に、各学部の教育目標を系統性にに基づき整理した。</li> <li>・ 進路について、卒業生の保護者アンケートを行い、余暇時間の過ごし方の大切さ、生徒の生活様式の実態に合った進路選択の重要性が見えた。在校生保護者へ、その分析をぜひ伝えてほしい。小・中・高と系統的に進路支援を行い、キャリア教育の視点も必要。親子で進路を学ぶ家庭も大切。</li> <li>➡ 今後、事業所見学など保護者のニーズに応じていきたい。小学部段階から自立と社会参加をめざし、キャリア教育を推進したい。卒業後、家庭での余暇等の過ごしについても伝える必要がある。</li> <li>・ 小学校では、6年間で何を身に付け、将来に向けてどう生かすかなどキャリア教育に取り組んでいる。支援学校の保護者も小学部の段階からキャリア教育とは何かなどについて理解できるとよい。</li> <li>・ 橋本高校では、総合的な探究の時間や教科横断的学習で考える機会を設けている。</li> <li>・ 通学支援について教育課程に位置付けて取り組みたい。地域の見守りや移動サービス等を活用して自立を促す取組を保護者等に周知する必要がある。放課後等デイサービス利用により自力通学の経験が少ない。共働き家庭など、自力通学の準備・協力が難しい家庭も増えている現状である。</li> <li>・ 就労継続支援B型の送迎がある事業所が増加、援助を受けて自立をめざすことも重要である。</li> <li>・ 家庭と教育と福祉が連携する「トライアングルプロジェクト（厚生労働省・文部科学省）」の対応はしていないのか。放課後等デイサービス事業所との連携は行っているか。</li> <li>➡ 学校と放課後等デイサービス事業所との連携は、年1回意見交換をする機会を作っている。</li> <li>★他の項目は、次回へ</li> </ul> <p style="text-align: right;">以上</p>	